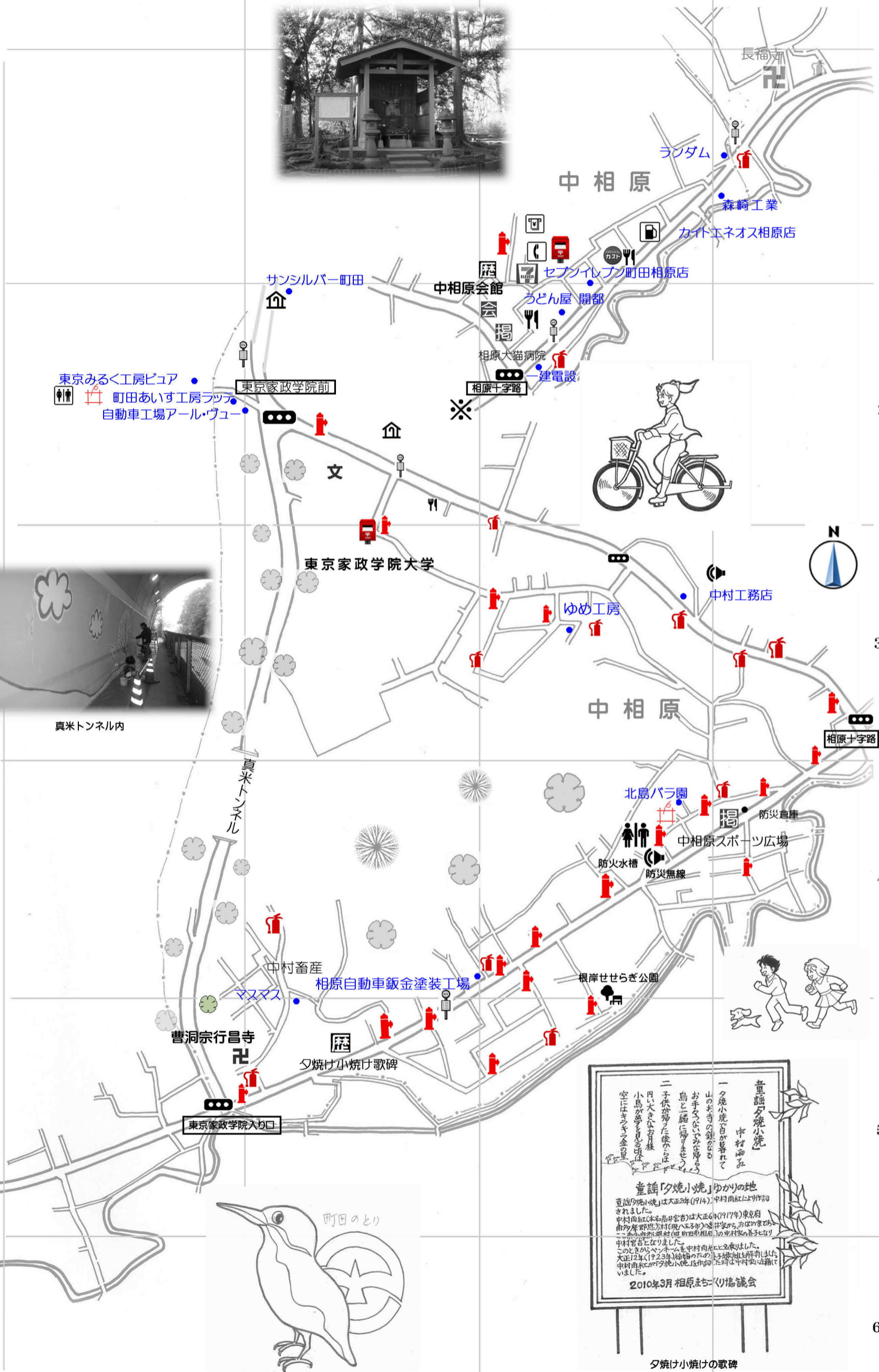


中相原地区

- 老人ホーム
- 幼稚園
- 郵便局
- 防災無線
- 保育園
- 病院
- 避難場所
- 図書館
- 神社
- 消火栓
- 消火器
- 理容・美容院
- 公衆電話
- 公園
- 交番
- 銀行
- コンビニエンスストア
- ガソリンスタンド
- 寺
- 学校
- 温泉
- 井戸
- レストラン
- 公衆トイレ
- みんなのトイレ
- バス停
- ATM設置場所
- AED設置場所
- 掲示板
- 案内板
- 町会・自治会館
- 歴史的建造物

H 大日如来堂(お大日さま)



真米トンネル内



町田市の鳥かわせみ

童謡「夕焼小焼」
 中村雨江
 夕焼小焼白が暮れて
 山のまきの鏡がなる
 お手たのみに帰るまで
 鳥と一緒にはなせぬ
 二子供が帰った後から
 月い大きなお月様
 小鳥が夢を見過ごして
 空にはキラキラの星

童謡「夕焼小焼」の地
 童謡「夕焼小焼」は大正2年(1914)中村雨江により作詞されました。
 中村雨江(本名島井富吉)は大正6年(1917)東京府南多摩郡野洲村(現八王子市)の富中家から、おばあさま(中村雨江の母)の縁で、町田中相原の茶子と知り合いました。
 このときから、中村雨江は町田中相原に愛着をもちました。
 大正12年(1923)結婚のため、茶子様と知り合った中村雨江が「夕焼小焼」を作詞した時は、中相原に暮らしていました。
 2010年3月 相原まちづくり協議会

夕焼小焼の歌碑